

留学報告書

2012.2.17

李 采眞

日本に来る前日に感じた緊張感と不安感を今もはっきり覚えています。その時には、日本語の会話もあんまりできてなかったし、人生の初の留学だったから家族や友達と別れるのがだいぶきつくて寝れなかったです。でも、もうすぐ韓国に帰る日が来る今は、ここを離れるのが寂しくて悲しくて寝られなさそうです。それぐらいにここで過ごした6ヶ月は私にとって大切な時間でした。何よりも、これができたのは国際交流支援チーム、日本人サポータのおかげだと思います。福岡空港に着いた瞬間から今までずっと手伝ってもらって、この生活が順調になりました。特に、国際交流支援で主催した見学や他の国で来た留学生との交流会とかいろんなイベントは私の留学生活をもっと豊かにしてくれました。

授業は社会環境学科の中で自由に選ぶことができ、その中で私は主に経営関連の授業をうけました。もちろん、授業の内容を全部理解することはできなかったですが、その理由でもっと集中しなければならないという心構えがあったし、知らないことを探しながら学ぶ楽しさもありました。そして、単位以外の授業で、留学生のため日本語会話と日本語能力試験授業があって、この授業を受けながら勉強した結果、日本語能力試験1級を取れました。

でも、ここに来て学んだことが日本語だけではないです。自分より私たちを考えてくれる友達に出会って、喜ばしいことも悲しいことも一緒にしました。日本人だけでなくタイ人、アルバニア人、中国人まで様々な国籍を持つ友達が集まって一緒に運動したり、旅行に行ったりするのは韓国では想像もできなかったことです。いろんな人といろんな経験をすることで、もっと広く見れる目を持つことになりました。そして、私が韓国に帰ったらここでもらった親切を他の人にも伝えたいです。これが本ではなく人から得た学びです。

最後に言いたいことがあります。

私はここに来てやっと‘青春’の意味をわかりました。私が感じた‘青春’とは派手ではないが最も輝く瞬間。私にとって今度の留学生活は毎瞬間‘青春’みたいでした。どんな結果物とかは出ないけど、毎瞬間を楽しむことで、今を大切にすることで私の留学時節は輝きました。私はそれを心に留めておいて、韓国に戻ります。韓国に行ってもこの心を忘れないように頑張ります。